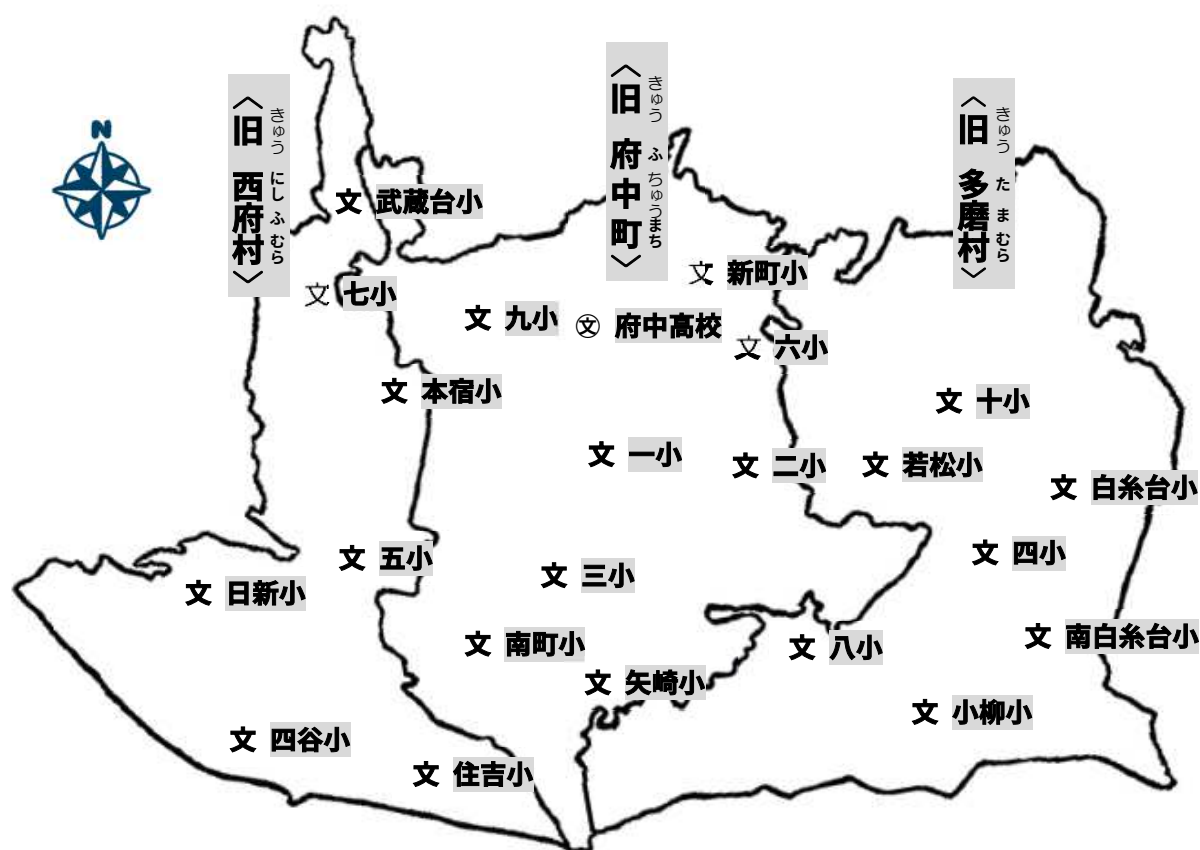
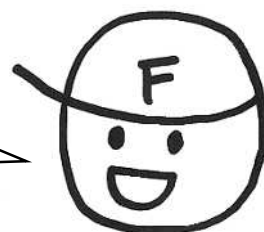


むかしの府中の学校



むかしの子どもたちはどこで
勉強していたの？



江戸時代には手習塾と呼ばれる場所が
あって、そこで勉強していたんだよ。



て ならいじゅく 手 習 塾

え ど じ だ い こ よ か にちじょう せいかつ ひつよう
江戸時代、子どもたちに、読み・書き・そろばんなど、日常の生活に必要な

おし がっこう かみがた げんざい かんさい ち ほう てら
ものを教える学校のようなところがありました。上方（現在の関西地方）では寺

こ や よ え ど げんざい どうきょう く あた ちゅうしん ち いき てならいじゅく
子屋と呼ばれ、江戸（現在の東京23区辺り）を中心とした地域では手習塾

て ならいじょ よ そうりょ ぶ し しんかん ひら こ て
とか手習所とか呼ばれ、僧侶や武士、神官などが開いていました。その後、手

ならいじゅく ぜんこく ひろ
習塾は全国に広がりました。

ふ ちゅう し りつしょうがっこう こうしょう 府中市立小学校の校章

府中第一小学校



府中第二小学校



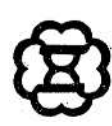
府中第三小学校



府中第四小学校



府中第五小学校



府中第六小学校



府中第七小学校



府中第八小学校



府中第九小学校



府中第十小学校



武蔵台小学校



住吉小学校



新町小学校



本宿小学校



白糸台小学校



矢崎小学校



若松小学校



小柳小学校



南白糸台小学校



四谷小学校



南町小学校



日新小学校



こうしょう
校章にはそれぞれの
がっこう とくちょう
学校で特徴があるね！



きゅう ふ ちゅうまち

旧 府 中 町 の 小 学 校 （ 府 中 市 立 府 中 第 一 小 学 校 ）

めいじ はじ きゅう ふ ちゅうまち て ならいじゅく はら だ じゅく さと み じゅく
明治の初め、旧 府 中 町 には手 習 塾 として「原田塾」や「里見塾」があり

ました。この二つの塾は学制が公布された際にそれぞれ小 学 舎として「成蹊学

舎」、「至誠学舎」と名前を変えました。

めいじ つうたつ
明治8（1875）年6月、通達により

ふた がくしゃ がっぺい ふ ちゅうがっこう
二つの学舎は合併して「府 中 学校」と

よ 呼ばれるようになります。当時は安養寺

（本町 1－17）を仮校舎とし、全校で

ひゃくすうじゅうめい じ どう かよ
百数十名の児童が通っていました。



まへ むさしふちゅうきょうど ひょうしき
＜一小前の武蔵府中郷土かるたの標識＞

ご めいじ げんざい し やくしよ ぼ しょ
その後、明治18（1885）年4月、現在の市役所の場所（宮西町2－24）に

ひら や かい だ こうしゃ いてん めいじ だい
平屋（1階）建て校舎をつくって移転しました。明治19（1886）年4月の第

いち じ しょうがっこうれい めいじ じんじょう か がっきゅう こうとう
一次小 学校令により、明治20 年（1887）年4月から尋 常 科3学級と高等

か がっきゅう へんせい めいじ ふ ちゅうじんじょうこうとう
科1学級 の編成になりました。明治25（1892）年4月には「府 中 尋 常 高等

しょうがっこう こうめい へんこう じ どう かず ふ こうしゃ て
小 学校」という校名に変更されます。やがて児童の数が増えるにつれ校舎が手

ぜま あたら こうしゃ ひつよう しょう わ
狭になり、新 しい校舎をつくる必要になりました。昭和10（1935）

しんこうしゃ けんせつ はじ しょう わ げんざい ぼ しょ
年3月から新校舎の建設が始まり、昭和11（1936）年10月、現在の場所

かんせい もくぞう にかい だ ふ ふうきょうしつ しつ とくべつきょうしつ
（寿町 2－6）に完成しました。木造二階建て、普通 教室（35室）、特別 教室

しつ しょくいんしつ えいせいしつ しつ ろう か なが かい かい あ
（5室）、職 員室・衛生室など（7室）、廊下の長さは1階と2階合わせて580

とう じ おお たてもん
メートルにもなる当時としては大きな建物でした。

ふくげん きゅう ふ ちゅうじんじょうこうとうしょうがっこう
 復元された旧府中尋常高等小学校の
 こうしゃ きょう ど もりはくぶつかん み
 校舎は郷土の森博物館で見られるよ！



きゅう ふ ちゅうじんじょうこうとうしょうがっこう
 <旧府中尋常高等小学校>

だいに じ せ かいたいせん はじ しょう わ こく민がっこうれい
 やがて第二次世界大戦が始まり、昭和16（1941）年3月に国民学校令が

こう ふ ふ ちゅうこく민がっこう かいしょう せん ご しょう わ
 公布され、「府中国民学校」と改称されました。戦後、昭和22（1947）年

きょういく き ほんぽう がっこうきょういくほう こう ふ どうねん ふ ちゅうちょう
 3月31日、教育基本法・学校教育法が公布され、同年4月1日に「府中町

りつ ふ ちゅうしょうがっこう とう じ じ どうすう にんちか きょうしつ
 立府中小学校」となりました。当時の児童数は3,000人近くいたので、教室

た ぜんたい ふた わ にち かいじゅぎょう おこな
 が足りなかったため、全体を二つに分けて、1日に2回授業を行っていました。

かいこう じ どう うつ
 9月に「府中第二小学校」が開校したため、「府中小学校」から児童573人が移

しょう わ こうめい へんこう
 り、昭和23（1948）年6月2日に校名を「府中第一小学校」に変更しまし

かいこう じ どうすう
 た。しかし、「府中第二小学校」が開校してからも「府中第一小学校」の児童数

ふ つづ あら しょうがっこう つく き しょう わ
 は増え続けたため、新たな小学校を作ることが決まり、昭和28（1953）年

こうあん じ ちか あたら かいこう
 4月、高安寺の近く（片町3-5）に新しく「府中第三小学校」が開校しまし

た。

そして昭和^{しょうわ}29（1954）年、府中^{ふちゅうまち}町・多磨^{たまむら}村・西府^{にしふむら}村が合併して府中市^{がっぺい}が

誕生^{たんじょう}すると、町立^{ちょうりつ}から市立^{しりつ}に変わり現在の「府中市立府中第一^{げんざい}小学校」となります。

児童^{じどう}の昼食^{ちゅうしょく}は、麦^{むぎ}めしなどの弁当^{べんとう}をそれぞれが自分で持^もってきていました

が、昭和^{しょうわ}35（1960）年に一小^{がっこう}でも学校給食^{きゅうしょく}が始^{はじ}まりました。プールがで

たのはそれから5年後^ごの昭和^{しょうわ}40（1965）年です。昭和^{しょうわ}55（1980）年の改^{かい}

築^{ちく}を最後^{さいご}に、木造^{もくそう}校舎^{こうしゃ}は姿^{すがた}を消^けしました。しかし卒業生^{そつぎょうせい}を中心^{ちゅうしん}に保存^{ほぞん}してほ

しいという声^{こえ}があがり、一部^{いちぶ}が昭和^{しょうわ}58（1983）年3月に郷土^{きょうど}の森^{もり}博物館^{はくぶつかん}の

敷地^{しきち}の中^{なか}に復元^{ふくげん}されました。

昭和^{しょうわ}39（1964）年に結成^{けっせい}された鼓笛隊^{こてきたい}は、長い伝^{なが}統^{でん}をもつ特^{とく}色^{しよく}ある活^{かつ}動^{どう}

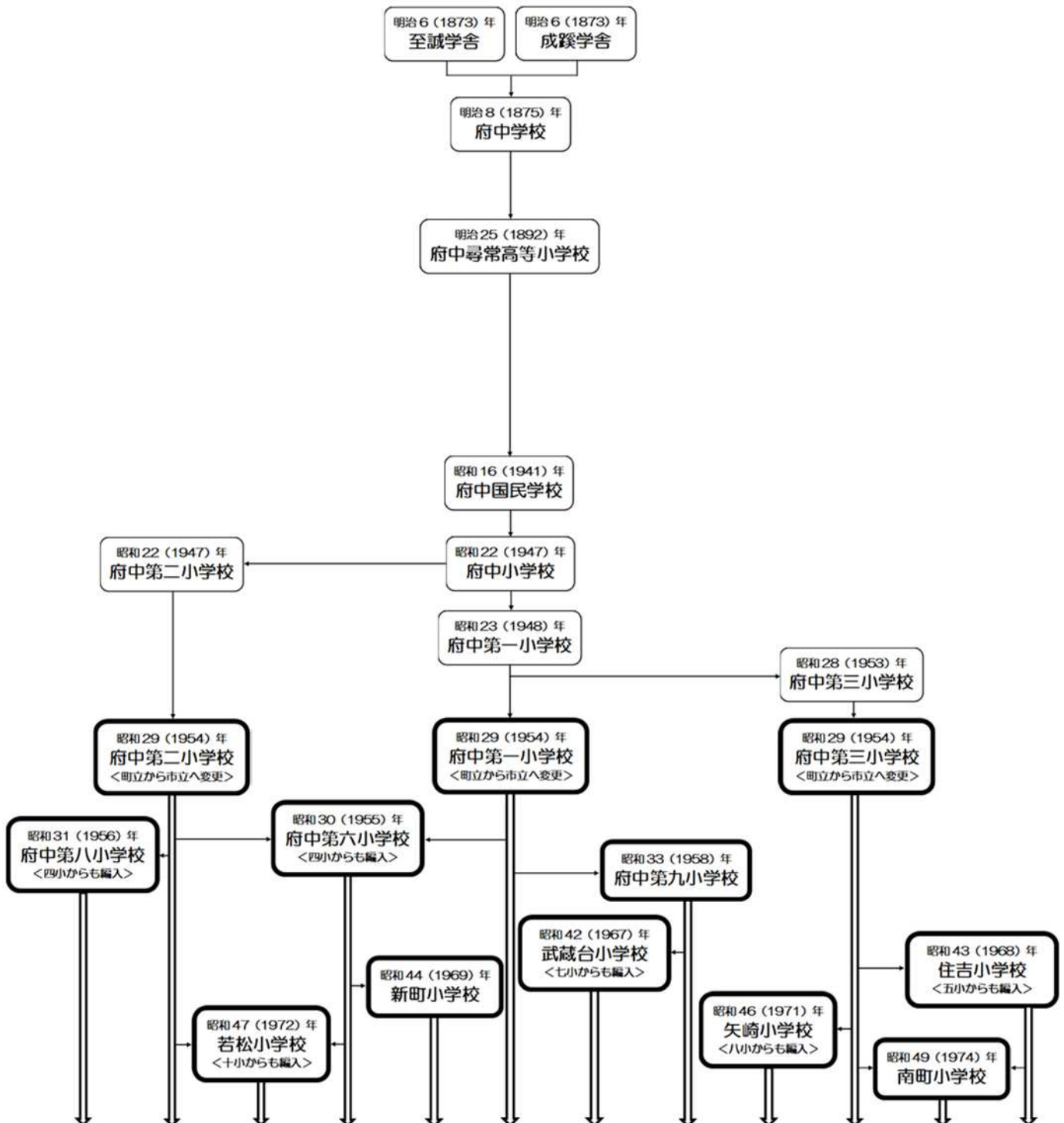
で、現在^{げんざい}も桜^{さくら}まつりパレードや福祉^{ふくし}まつりなど、多^{おお}くのイベン^{かつやく}トで活躍^{かつやく}してい

ます。



<一小^{こうしゃ}の校舎^{れい}（令和^{げんざい}2年3月現在）>

きゅう ふ ちゅうちょう れき し
旧府中町の小学校の歴史



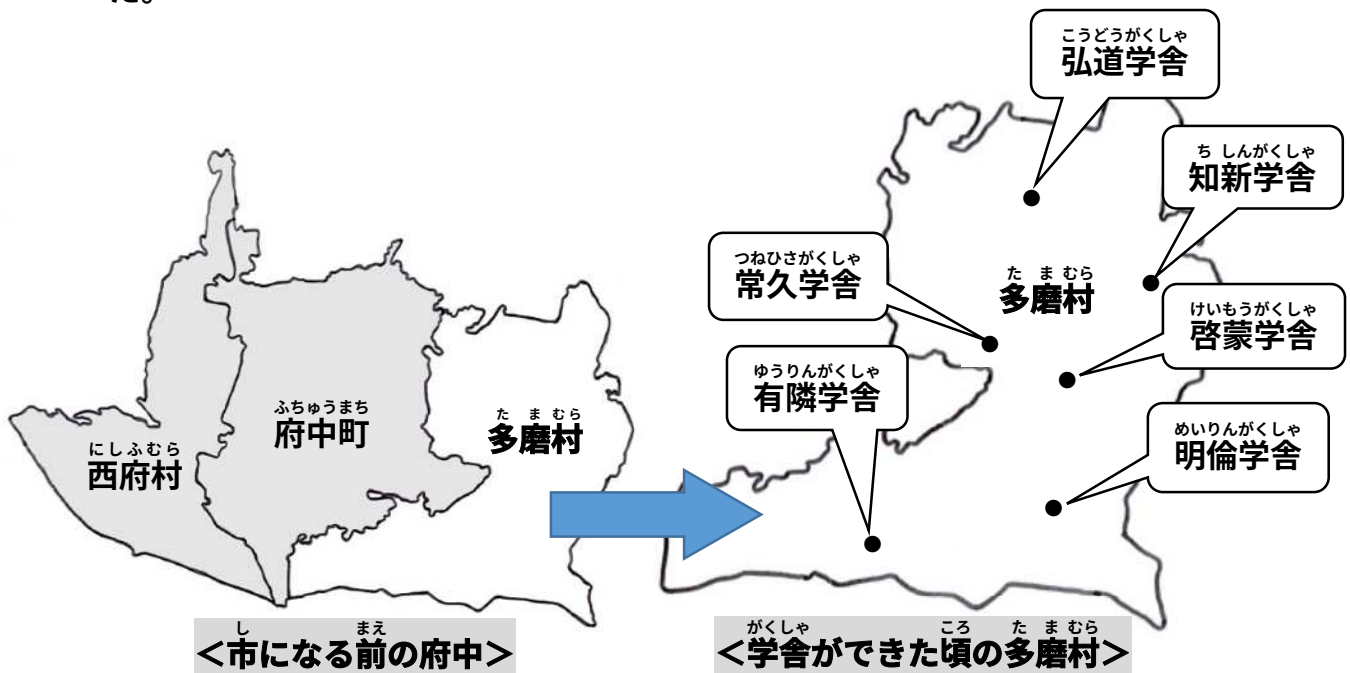
きゅう た ま むら

旧 多磨村の小学校(府中市立府中第四小学校)

「府中第四小学校(白糸台 1-58)」がある市の東側、旧多磨村の地域には、

江戸時代からいくつかの手習塾がありました。明治5(1872)年に学制が公

布されると手習塾は廃止され、明治6(1873)年に6つの学舎ができました。



そして、明治8(1875)年の通達によって、是政村の「有隣学舎」は「是政

学校」、上染屋村と人見村の「弘道学舎」は「人見学校」、常久村と小田分村の「常

久学舎」は「常久学校」、車返村の「啓蒙学舎」は「車返学校」、下染屋村の

「知新学舎」は「染屋学校」、押立村の「明倫学舎」は「押立学校」に名前が変

わりました。その後、「人見学校」と「常久学校」は合併して「協立学校」に、

「車返学校」と「染屋学校」と「押立学校」は合併して押立に分校を持つ「玉

流学校」となります。

めいじ 明治22（1889）年になると、府中市の 東 側にあつた八つの村（是政村、上
 そめ や むら ひと み むら つねひさむら お だ ぶんむら くるまがえしむら しもそめ や むら おしたてむら がっぺい
 染屋村、人見村、常久村、小田分村、車 返 村、下染屋村、押立村）は合併し、
 た ま むら 多磨村となります。この頃、多磨村には「是政学校」、「協 立学校」から 再 び分
 かれた「人見学校」と「常久学校」、そして「玉 流 学校」の四つの小学校があ
 りました。

ご だい に じ しょうがっこうれい こう ふ その後、第二次 小 学校令が公布され、明治25 年（1892）年に「是政学校」、
 ひと み つねひさ これまさ ぶんこう も もんとくじんじょう ぎよく
 「人見学校」、「常久学校」は是政に分校を持つ「文徳尋 常 小学校」に、また「玉
 りゅう おしたて ぶんこう も せい か じんじょう めい じ
 流 学校」は押立に分校を持つ「精華尋 常 小学校」となりました。明治35（1902）
 年 6 月 10 日になると、この 2校が合併して是政に分校を持つ「多磨尋 常 高等
 小学校」が開校します。初めの頃は下染屋にあつた観音院（白糸台 3 丁目）や
 もんとくじんじょう せい か じんじょう じゅぎょう おこな めい じ
 「文徳尋 常 小学校」「精華尋 常 小学校」で授 業 を 行 っていました。明治36
 （1903）年になると、多磨村の 中 央部にある 車 返 にできた 新 しい校舎に移
 てん ご しょう わ こく민がっこうれい こう ふ た ま こく민
 転します。その後、昭 和 16（1941）年に国民学校令が公布されて「多磨国民
 学校」に、 終 戦後の 昭 和 22（1947）年には 教 育基本法・学 校 教 育法が公
 ふ た ま そんりつ た ま なまえ か
 布されて「多磨村立多磨小学校」と名前が変わりました。



＜四小の校舎（令和2 年 3 月現在）＞

しょう わ 昭和29（1954）年4月、た ま む ら 多磨村、ふ ちゅう ま ち 府 中 町、に し ふ む ら 西府村ががっぺい 合併して府中市が誕
 生すると、た ま 多磨小学校は府中市立の学校になりました。そのはんとし ご 半年後、11月
 1日にはげんざい 現在の校名である「府中第四小学校」となります。その後、こ じ どう か ず 児童の数が
 増えていくと、しょう わ 昭和30（1955）年には「府中第六小学校」がかいこう 開校して「四小」
 からじ どう いち ぶ う ち 児童の一部が移っていきました。また、これまたか だ げんざい 是政高田（現在の是政1丁目辺り）
 にあった「四小」のぶんこう 分校「是政分校」はしょう わ 昭和31（1956）年8月にはいこう 廃校とな
 り、おな とし 同じ年の9月1日に「府中第八小学校」としてかいこう 開校し、同じように「四小」
 からじ どう いち ぶ う ち 児童の一部が移っていきました。それから「府中第十小学校」、「白糸台小
 学校」、「南白糸台小学校」そしてかいこう 小柳小学校が開校したことなどにより、「四
 小」からさらにじ どう いち ぶ う ち 児童の一部が移っていきました。しょう わ 昭和34（1959）年には府中
 市ではじ 初めての学校給食が「四小」ではじ 始まり、しょう わ 昭和38（1963）年にはかい だ 3階建
 てのてっきん 鉄筋コンクリートのこうしゃ つく 校舎が作られました。また、しょう わ 昭和40（1965）年にプ
 ールが、よくねん 翌年にはたいいくかん 体育館ができました。しょう わ 昭和48（1973）年にはそうりつ 創立100周
 年をねん むか 迎え、きねんそう 記念像としてた ま こ そう た 多磨っ子の像がげんざい おお 建てられました。現在までに多くの
 児童がじ どう す だ 巣立っていき、れき し いま つづ 其の歴史は今なお続いています。

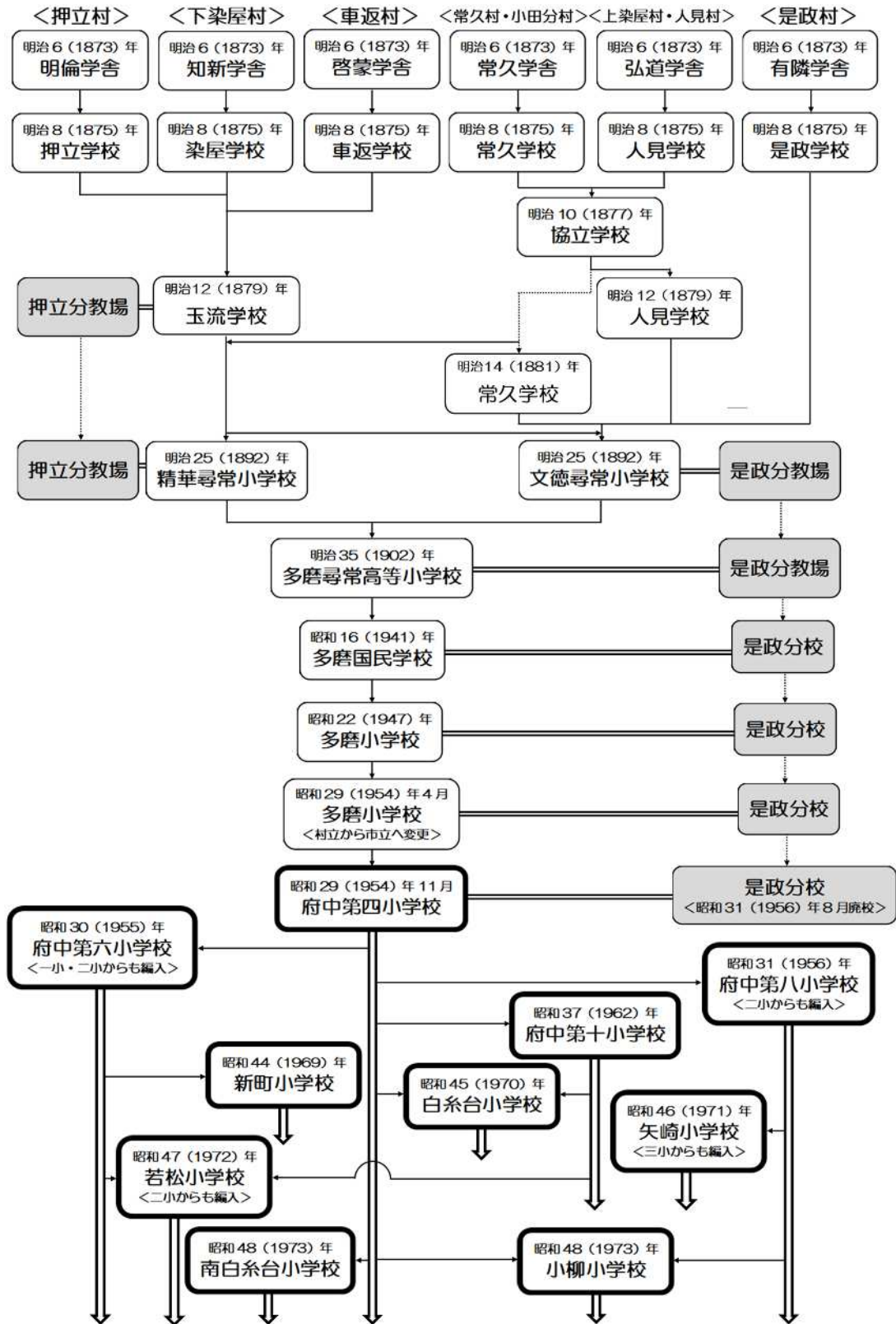
む ら の し ろ う 村野四郎

えき くだ 駅の下りホームででんしゃ せつきん し 電車の接近を知らせるメロディー
 としてもつか 使われている『ぶんぶんぶん』や、そつぎょう 卒業
 しき うた 式で歌われるす だ うた さく し む ら の し ろ う 村野四郎
 は、ぜんしん 前身であるた ま じんじょうこうとう 多磨尋常高等小学校
 のそつぎょうせい 卒業生です。「四小」のひゃくしゅうねん きねん さくせい 百周年を記念して作成
 されたきねんざい 記念像『多磨っ子の像』には、む ら の し ろ う 村野四郎が作
 し た た ま こ きざ 詞した『多磨っ子のうた』がくまれています。



た ま こ そう
 <多磨っ子の像>

きゅう た ま む ら れき し
旧 多磨村の小学校の歴史



きゅうにし ふ むら

旧 西府村の小学校（府中市立府中第五小学校）

「府中第五小学校（本宿町 1－51）」は、府中市の西側、南武線西府駅の南にある小学校です。明治時代の初め、この地域には本宿村・屋敷分村・中河原村・四ツ谷村がありました。その中の屋敷分村（現在の美好町 辺りが村の中心）に、江戸時代から続く手習塾の「石坂塾」がありました。明治5（1872）年に学制が公布されると、翌年5月頃に「石坂塾」は「育幼学舎」へと名前が変わりました。この「育幼学舎」が、「府中第五小学校」の始まりです。

「育幼学舎」は明治7（1874）年5月に、小野宮正光院（住吉町 3－2）に移ったため、通達により明治8（1875）年8月から「小野学校」と呼ばれるようになりました。その年の児童数は116人でした。

その後、甲州街道沿いに住んでいる人たち（本宿町・西府町・美好町の一部）から、「小野学校」へ通うのが不便だと訴えがあり、明治9（1876）年4月に「本宿学校」（本宿町 2－14）が作られました。地域内に2校できたことで「小野学校」に通う児童が少なくなったため、明治11（1878）年9月、「本宿学校」に統合されて、新たに「奇秀学校」ができました。やっと1校にまとまりましたが、むかしから児童が学校に通うのが大変だった四ツ谷村が、明治13（1880）年8月、四ツ谷玉川寺（四谷 4－7）に「四ツ谷学校」を作りました。

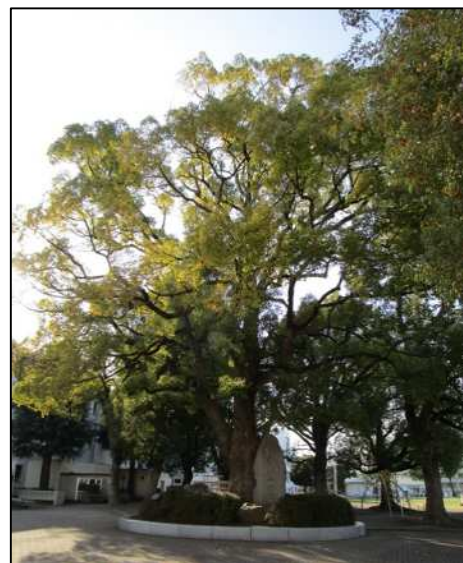
明治22（1889）年4月、本宿村・中河原村・四ツ谷村が合併して、西府村
 ができました。第二次小学校令により、明治25（1892）年4月、校名が「奇
 秀尋常小学校」と「四ツ谷尋常小学校」に変わりました。同年6月、「奇秀
 尋常小学校」は児童数が増えたために、共同製糸工場跡地（本宿町2-7-
 6）に移りました。そして、明治26（1893）年10月、中河原の法音寺（住吉
 町1-47）に、新たに「中河原分教場」をつくりました。しかし、明治45
 （1912）年4月、現在の「府中第五小学校」の場所に「奇秀尋常小学校」の
 新しい校舎ができると、「中河原分教場」は廃止されました。
 昭和2（1927）年4月、「奇秀尋常小学校」に高等科が置かれて、校名が
 「奇秀尋常高等小学校」に変わりました。また、昭和13（1938）年1月に
 「四ツ谷尋常小学校」は「奇秀尋常高等小学校」に統合されましたが、「四ツ
 谷分教場」として残りました。そして、昭和16（1941）年4月に、「奇秀
 尋常高等小学校」は「西府国民学校」と校名が変わり、昭和20（1945）年
 1月に「四ツ谷分教場」は廃止されました。終戦後の昭和22（1947）年
 3月には、教育基本法・学校教育法が公布されて、4月に「西府村立西府小学
 校」と校名が変わりました。
 昭和29（1954）年4月に、西府村・府中町・多磨村が合併して府中市が
 誕生しました。校名も「府中市立府中第五小学校」になり、同時に「北山分校」
 も置かれました。「北山分校」は昭和30（1955）年に「府中市立府中第七小
 学校」として開校しました。

府中市の人口が増えるにつれて、新しい学校が作られるようになります。昭和43（1968）年に「住吉小学校」、昭和45（1970）年に「本宿小学校」、昭和49（1974）年に「四谷小学校」、昭和53（1988）年に「日新小学校」ができると、近くに住んでいる児童は「府中第五小学校」から学区が変わって、新しい小学校に通うようになりました。また、「府中第七小学校」も児童が増えたため、昭和42（1967）年に「武蔵台小学校」が新しく作られました。



<五小の校舎（令和2年3月現在）>

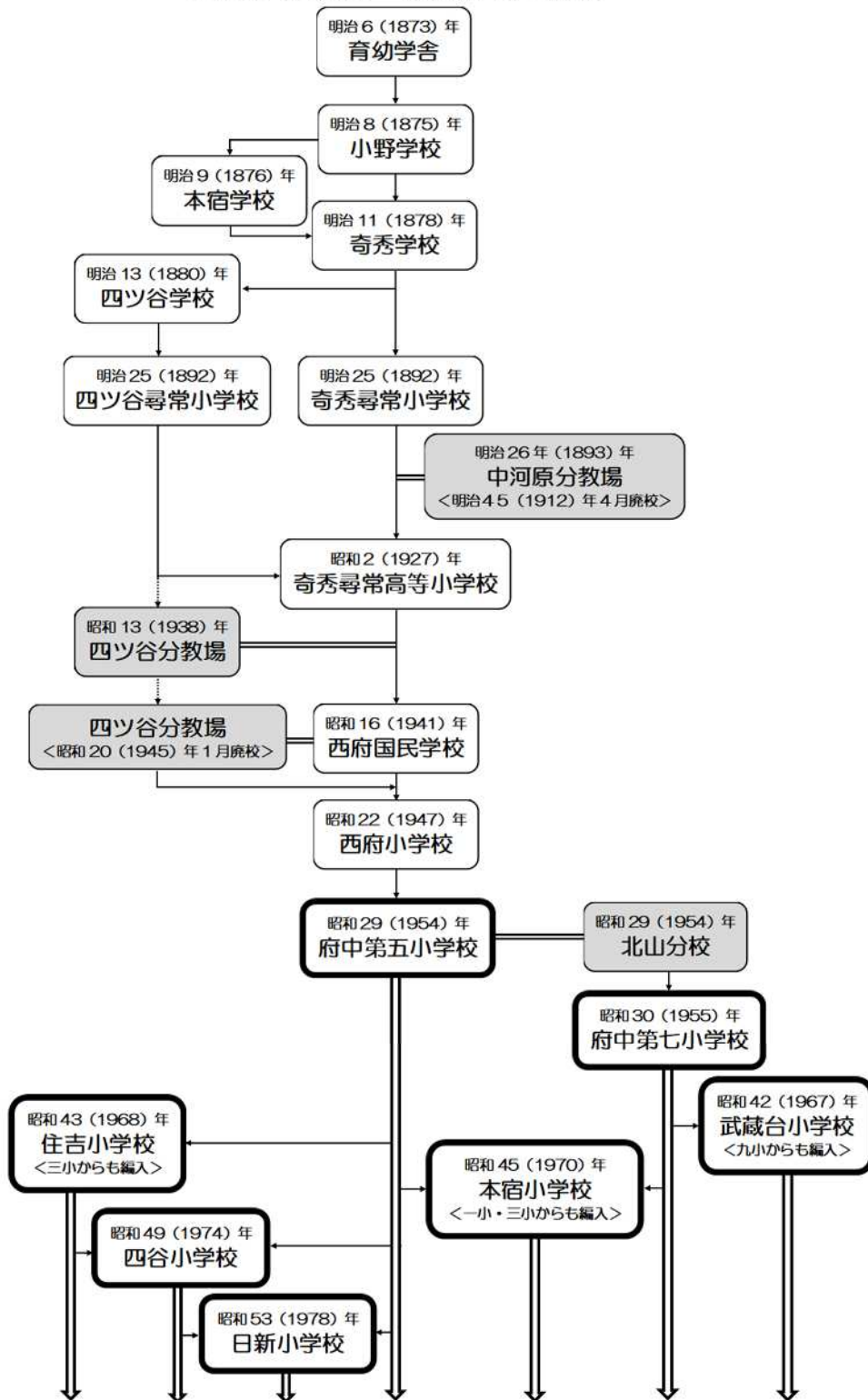
「府中第五小学校」の校門を入るとすぐに大きなクスノキがあります。現在の場所に校舎ができた時に植えられ、学校の歴史とともに育ってきた大木は、高さが18メートルになるほど成長しました。「くすのき」は様々な教育活動の愛称としても使われてきましたが、現在は「総合的な学習の時間」の愛称として親しまれています。



<五小のクスノキ>

旧 西府村の小学校の歴史

<本宿村・屋敷分村・中河原村・四ツ谷村>



まぼろし ふちゅうしりつこうこう

幻の府中市立高校？（東京都立府中高等学校）

府中市には、公立^{*1}高校が5校、私立^{*2}高校が1校あります。現在の公立高校

は、全て東京都が運営をしている「都立」の学校です。この中で「府中高校」

が、むかし「市立」の学校だったことを知っていますか？

公立^{*1}・私立^{*2}

東京都が運営している学校は「都立」、市が運営している学校は「市立」といい、「公立学校」です。
学校法人が運営している学校は「私立学校」といいます。

「府中高校」の歴史は、大正6（1917）年、東京府東京市本郷区千駄木町

（東京都文京区千駄木）に作られた「東光学園専修商業学校」という私立

の学校から始まります。昭和12（1937）年4月、「東光学園」は、当時教師

をしていた赤松唯信氏（後の「東光学園」の理事長・校長）が東京府北多摩

郡府中町12325（栄町3-3-1）に持っていた農園の一部をゆずり受け、学

校の農場にしました。

太平洋戦争が始まると、教育に関する戦時非常措置方策によって、昭和19

（1944）年4月、「東光学園」は、今までの商業学校から工業学校に変わ

ります。同年8月には、「赤坂区立赤坂乃木国民学校」の集団疎開^{*3}児童を学校

農場内の学寮^{*4}に受け入れました。

疎開^{*3}

戦争などのとき、被害を避けるために都市の人や物を安全な地方に移すこと。

学寮^{*4}

学校の寮のこと。

しょうわ せん か とうこうがくえん ほんごうこうしゃ
昭和20（1945）年1月28日、戦火によって「東光学園」の本郷校舎が
しょうしつ あかまつ し どうこう せい と がくりょう う い どうねん せんそう お
焼失すると、赤松氏は同校の生徒も学寮に受け入れます。同年8月に戦争が終

わると、11月には「赤坂乃木国民学校」の疎開児童は元の学校へ戻っていきま
した。しかし、とうきょう と ひ つづ せんさい こ じ し せつ せつ ち
東京から、引き続き戦災孤児^{*5}のための施設を設置してほし

いと頼まれたため、あかまつ し のうじょうない がくりょう
赤松氏は学校農場内の学寮

を『とうこうがくりょう な づ せんさい こ じ ほ ぐ
『東光学寮』と名付けて、戦災孤児を保護す

せんさい こ じ
*5 戦災孤児
せんそう ひ がい ほ ご しゃ
戦争の被害によって保護者
うしな こ
を失った子ども。

ることになります。

しょうわ とうこうがくりょう てんのう じゅんこう
昭和21（1946）年3月1日、府中の『東光学寮』へ天皇の巡幸^{*6}があ
りました。その後、あかまつ し じょ し きょういく
赤松氏は女子教育のため

の学校をつく き どうねん
の学校を作ることを決めます。同年3月28

日には、あかまつ し のうえん とうこうがく
府中にあった赤松氏の農園を「東光学

じゅんこう
*6 巡幸
てんのう かく ち み まわ めぐ
天皇が各地を見回って巡るこ
と。ほうもん しゅうせん ぐ
府中への訪問は、終戦後8
ねはん しょう わ てんのう ぜんこく
年半をかけた昭和天皇の全国
じゅんこう いっ しょ
巡幸のうちの一か所でした。

えん き ふ のうじょう ば しょ し りつとうこうこうとうじょうがっこう
園」へ寄付します。そして、学校の農場があった場所に「私立東光高等女学校」

つく り じ ちょう あかまつただのぶ し こうちょう あかまつ あ さ し
が作られました。このときの理事長は赤松唯信氏、校長は赤松阿佐氏です。

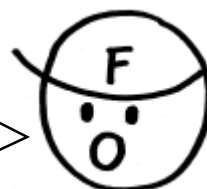
しょうわ とうこうがくえん あかまつがくえん な ま え か こうめい
昭和23（1948）年3月10日、東光学園は赤松学園と名前を変え、校名
も し りつあかまつじょ し こうとうがっこう
も「私立赤松女子高等学校」となりました。

しょうわ ごろ じんこう ふ し ない ふつう か
昭和30年頃になると、府中市の人口が増えてきたことで、市内に普通科の

こうこう ひつよう しょうわ あかまつじょ し こうこう
高校が必要となってきます。昭和35（1960）年11月1日、「赤松女子高校」

は府中市に移管^{*7}されて、校名も「とうきょう と ふ ちゅう し りつあかまつこうとうがっこう
は府中市に移管^{*7}されて、校名も「東京都府中市立赤松高等学校」となりまし

た。
このときに「ふ ちゅう し りつ こうこう
府中市立」の高校
ができたんだね！



い かん
*7 移管
かん り ほ か う つ
管理を他に移すこと。

しかし、昭和^{しょうわ}36（1961）年4月1日には、「府中市立赤松高校^{あかまつこうこう}」は府中市から東京^{とうきょう}都^とへ移管され、「東京^{とうきょう}都^と立府中^{い かん}高等学校^{とうきょう と りつ ふ ちゅうこうとうがっこう}」と変わります。同年4月、男子^{だんし}46名、女子^{じょし}48名の合計^{ごうけい}94名が入^{にゅうがく}学し、5月13日には開校^{かいこうしき}式^{おこな}が行^{おこな}われました。

昭和^{しょうわ}39（1964）年には南側^{みなみがわしんこうしゃ}新校舎^{かんせい}が完成し、学校のシンボルとなる天文^{てんもん}ドーム^きができました。また、もう一つのシンボルであるアカマツの木^{ひと}は“府中市の名木百選^{めいぼくひゃくせん}”に選ばれています。校内には自然^{えら}が多く、竹林^{こうない}では毎年^{し ぜん}、「府中第九^{おお}小学校^{ちくりん}」の児童^{まいとし}によるタケノコ掘り^ほが行^{おこな}われています。



みなみがわこうしゃ てんもん
＜南側校舎の天文ドーム＞



ふ ちゅうこうこう こうしょう
府中高校の校章はマツとケヤキを組み合わせた形^{く あ かたち}をしています。

～ とうこうがくえん あかまつがくえん
～ 東光学園から赤松学園、そして府中高校になるまで ～

うんえい 運営	で き ごと 出来事	
	きゅう ふ ちゅうまち 旧 府 中 町	ほんごう く げんざい ふんきょうく 本郷区（現在の文 京 区）
とうこうがくえん 東光学園	しょう わ 昭和12年 4 月 とうこうがくえん がっこうのうじょう つく (東光学園の学校農 場 が作られる)	たいしょう 大 正 6 年 とうこうがくえんせんしゅうしょうぎょうがっこう 東光学園専 修 商 業 学校
	↓	↓
	しょう わ 昭和19年 8 月 のうじょうない がくりょう しゅうだん そ かい じ どう (農 場 内 の学 寮 に 集 団疎開児童を う い 受け入れる)	しょう わ 昭和19年 4 月 きょういく かん せん じ ひ じょう そ ち ほうさく (教 育 に関する戦時非 常 措置方策に こうぎょうがっこう より工 業 学校となる)
	↓	↓
	しょう わ 昭和20年 1 月 とうこうがくえん せい と がくりょう う い (東光学園の生徒も学 寮 へ受け入れる)	しょう わ 昭和20年 1 月 こうしゃしょうしつ 校舎 焼 失
	↓	
	しょう わ 昭和20年 8 月～ しゅうせん ご とうこうがくりょう せんさい こ じ (終 戦後も東光学 寮 で戦災孤児を ほ こ 保護する)	
あかまつがくえん 赤松学園	↓	
	しょう わ 昭和21年 3 月 てんのう じゅんこう がっこう (天皇の 巡 幸をきっかけに学校を つく 作る) しりつとうこうこうとうじょうがっこう ねんせい 私立東光高等女学校 (5 年 制)	しょう わ にゅうがくあんない 昭和26年の 入 学案内によると、 がくねん がっきゅう 1学年1学 級 (クラス) でした。
ふ ちゅう し 府 中 市	↓	
	しょう わ 昭和23年 3 月 とうこうがくえん あかまつがくえん か (東光学園から赤松学園に変わり、 がっこうめい か 学校名も変わる) しりつあかまつじょ し こうとうがっこう 私立赤松女子高等学校	
とうきょう と 東 京 都	↓	
	しょう わ 昭和35年 11 月 ふ ちゅう し い かん (府 中 市へ移管) とうきょう と ふ ちゅう し りつあかまつこうとうがっこう 東 京 都府 中 市立赤松高等学校	あいだ そんざい およそ 5 か月の 間 だけ存在した ふ ちゅう し りつあかまつこうとうがっこう 「府 中 市立赤松高等学校」が、 まぼろし ふ ちゅう し りつこうこう 幻 の府 中 市立高校だったんだね。
とうきょう と 東 京 都	↓	
	しょう わ 昭和36年 4 月 とうきょう と い かん (東 京 都へ移管) とうきょう と りつ ふ ちゅうこうとうがっこう 東 京 都立府 中 高等学校	





きょういくせいど おも で き ごと
教育制度と主な出来事をまとめたよ。

ねんごう 年号	ほうれい 法令など	ほんぶん かか ないよう 本文に関わる内容	ほか で き ごと その他の出来事
めいじ 明治5 (1872)年	がくせい 学制	ぜんこく がっく わ つく 全国を学区に分けて小学校が作られた。 がっこうめい がくしゃ さい か 学校名は「～学舎」とされ、6歳から下 とう じょうとう けい 等小学校 4 年、上 等小学校 4 年の計 8 ねんかん きょういく き かん 年間を 教 育の期間とした。	めいじ 明治8(1875)年 けん つうたつ 県からの通達 な まえ そんめい しょう 小学校の名前には村名を使用して、 がくしゃ がっこう な まえ へんこう 「～学舎」は「～学校」と名前を変更 することとした。
めいじ 明治12 (1879)年	きょういくれい 教 育令	がっく せい うんえい ちようそん 学区制をやめて、小学校の運営が 町 村 しゅたい しょういく き かん き 主体になった。教 育の期間の決まりを やわ き ほんてき さいたん 和らげて、基本的に 8 年であるが最短 で 16 カ月とした。その後、明治13 (1880) 年に改正があった。	めいじ 明治19(1886)年 だいいち じ 第一次 しょうがっこうれい 小 学校令 しょうがっこうれい 小 学校令
めいじ 明治19 (1886)年	だいいち じ 第一次 しょうがっこうれい 小 学校令	じんじょう こうとう 小学校を尋 常 小学校と高等小学校の 2 だんかい じんじょうしょうがっこう ぎ む きょういく 段階として、尋 常 小 学校を義務 教 育 かてい じんじょう こうとう 課程とした。尋 常 小 学校・高等小学校と もに 教 育の期間は 4 年とした。	めいじ 明治23(1890)年 だいに じ 第二次 しょうがっこうれい 小 学校令
めいじ 明治23 (1890)年	だいに じ 第二次 しょうがっこうれい 小 学校令	しちょうそん じどう かず あ じんじょう 市 町 村が、児童の数に合わせて尋 常 小 学校を作ることとした。	めいじ 明治26(1893)年 さん た ま とうきょう ふ い かん 三多摩の東 京 府への移管 さん た ま ち い き きた た ま み な み た ま に し た ま 三多摩地域(北多摩・南 多摩・西多摩) か な が わ けん とうきょう ふ う つ が神奈川県から東 京 府に移った。
めいじ 明治33 (1900)年	だいさん じ 第三次 しょうがっこうれい 小 学校令	ぎ む きょういくせいど ぎ む か きょうか む 義務 教 育制度の義務化が 強 化され、無 しょう じんじょう 償 になった。尋 常 小 学校の 4 年間で義 む きょういく ぎ む きょういく せい 務 教 育という「義務 教 育の 4 年制」が じっさい 実際にできるようになった。明治 40 いち ぶ かいせい ぎ む きょう (1907) 年に一部改正されて、義務 教 いく き かん えんちよう 育の期間も 6 年に延 長 された。	たいしょう たいしょう 大正 3(1914)年-大正 7(1918)年 だいいち じ せ かいたいせん 第一次世界大戦
しょうわ 昭和16 (1941)年	こくみんがっこうれい 国民学校令	こくみんがっこう な まえ へん 「小学校」から「国民学校」と名前が変 こう しょうとう か こうとう か こう 更された。初等科 6 年と高等科 2 年で構 せい とうけい ねんかん ぎ む せい 成されて、合計 8 年間で義務制とされ た。しかし、戦争が起こっていたという せんそう お こともあり、高等科の義務制については こうとう か ぎ む せい 終 戦後まで実現できなかった。	しょうわ 昭和14(1939)年-昭和20(1945)年 だいに じ せ かいたいせん 第二次世界大戦
しょうわ 昭和18 (1943)年	こくみんがっこうれい 国民学校令	ぎ む きょういく き かん げんざい おな 義務 教 育の期間が現在と同じ 9 年 (小 学校 6 年・中学校 3 年) と決められた。 また、その他に高等学校 3 年間・大学 4 年 間を合わせた 6・3・3・4 制を基本とす る学校制度ができた。	しょうわ 昭和18(1943)年 きょういく かん せん じ ひ じょうそ ち ほうさく 教 育に関する戦時非 常 措置方策 せんそうちゅう こうとうしょうぎょうがっこう こうとう 戦争 中 のため、高等 商 業 学校が高等 こうぎょうがっこう ないよう ふく 工 業 学校になるという内容が含まれ ていた。
しょうわ 昭和22 (1947)年	きょういく き ほんほう 教 育基本法 がっこうきょういくほう 学校 教 育法	ぎ む きょういく き かん げんざい おな 義務 教 育の期間が現在と同じ 9 年 (小 学校 6 年・中学校 3 年) と決められた。 また、その他に高等学校 3 年間・大学 4 年 間を合わせた 6・3・3・4 制を基本とす る学校制度ができた。	しょうわ 昭和29(1954)年 ふ ちゅうし せいし こう 府 中 市制施行 きゅう ふ ちゅうまち きゅう た ま むら きゅうにし ふ むら 旧 府 中 町・旧 多磨村・旧 西府村が がっぺい 合併し、府中市となった。

もっと知りたくなったら読む本のリスト

しよめい ほん なまえ 書名 (本の名前)	ちよしゃ ほん か ひと 著者 (本を書いた人)	しゅつばんねん 出版年	ほん せ 本の背ラベル
ふ ちゅう し きょういく し つう し へん じょうかん 府中市教育史 通史編 上巻	ふ ちゅう し きょういく い いんかい へん 府中市教育委員会／編	2002	F372/10/7
ふ ちゅう し きょういく あゆみ 府中市 教育の歩み ふ ちゅう し きょういく し ふ きゅうばん －府中市教育史普及版－	ふ ちゅう し きょういく い いんかい へん 府中市教育委員会／編	2004	F372/10/7
くすの木 創立百二十周年記念誌 ふ ちゅうだい ご しょうがっこう (府中第五小学校)	ふ ちゅう し りつ ふ ちゅうだい ご しょうがっこう 府中市立府中第五小学校 ／編	1994	F376.2/10/7
ご しょうひゃくねん し 五小百年史	ふ ちゅう し りつ ふ ちゅうだい ご しょうがっこう 府中市立府中第五小学校創 りつひゃくしゅうねん き ねん じ ぎょうきょうさんかい 立百周年記念事業協賛会／ へん 編	1975	F376.2/10/7
そうりつひゃくしゅうねん き ねん し 創立百周年記念誌 ふ ちゅうだいよんしょうがっこう 府中第四小学校	ひゃくしゅうねん し へんしゅう い いんかい へん 百周年誌編集委員会／編	1974	F376.2/10/7
そうりつひゃくしゅうねん き ねん し 創立百周年記念誌 ふ ちゅうだいよんしょうがっこう かん い ばん 府中第四小学校 (簡易版)	ひゃくしゅうねん き ねん し へんしゅう い いんかい 百周年記念誌編集委員会 ／ へん 編	1974	F376.2/10/7
ふちゅうしりつふちゅうだいごしょうがっこうひゃくしゅうねん き ねん し 府中市立府中第五小学校百周年記念誌 ふ ちゅういししゅうひゃくねん し 府中一小百年誌	き ねん し へん 記念誌部／編	1973	F376.2/10/7
ふ ちゅうこうこう しゅうねん し 府中高校25周年誌	ふ ちゅうこうこう しゅうねん し へんしゅう い いん 府中高校25周年誌編集委員 かい へん 会／編	1987	F376.4/10/7
ふ ちゅうこうこう ねん あゆみ 府中高校40年の歩み とうきょう と りつ ふ ちゅうこうとうがっこう 東京都立府中高等学校創立40周年記念誌	とうきょう と りつ ふ ちゅうこうとうがっこう 東京都立府中高等学校	2001	F376.4/10/7

さんこう
参考にしたホームページ

し りつしょう ちゅうがっこう いちらん ふ ちゅう し きょういく い いんかい
市立小・中学校の一覧 (府中市教育委員会)

<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/kyoiku/gako/gakokiso/chugakko.html>

とうきょう と りつ ふ ちゅうこうとうがっこう
東京都立府中高等学校

<https://www.metro.ed.jp/fuchu-h/>

さがしている本が見つから
ない時は、図書館の人に聞
いてみましょう。



「むかしの府中の学校」 こども府中はかせ No.10

2020年3月発行

2025年3月改訂

府中市立図書館 編集・発行

<https://library.city.fuchu.tokyo.jp/>